

基準地番号	提出先	所属分科会名	業者名	芝桜不動産鑑定
町田(都) - 23	東京都	多摩第 3	氏名	不動産鑑定士 谷 和也

鑑定評価額	21,100,000 円	1 ㎡当たりの価格	95,400 円 / ㎡
-------	--------------	-----------	--------------

1 基本的事項

(1)価格時点	令和 5 年 7 月 1 日	(4)鑑定評価日	令和 5 年 7 月 5 日	(6) 路線 価	[令和 5年1月]	円 / ㎡
(2)実地調査日	令和 5 年 6 月 23 日	(5)価格の種類	正常価格		路線価又は倍率	1.1 倍
					倍率種別	
(3)鑑定評価の条件	更地としての鑑定評価					

2 鑑定評価額の決定の理由の要旨

(1) 基準地	所在及び地番並びに「住居表示」等		町田市図師町字三号 6 1 3 番 1 0					地積 (㎡)	221 ()	法令上の規制等		
	形状	敷地の利用の現況	周辺の土地の利用の状況		接面道路の状況	供給処理施設状況	主要な交通施設との接近の状況		1 低専 (40,80) 高度(1種)			
	1 : 1.2	住宅 W 2	中規模一般住宅が多い閑静な住宅地域		南東6 m 市道	水道、ガス、下水	淵野辺3 km		(その他)			
(2) 近隣地域	範囲	東 150 m、西 150 m、南 30 m、北 70 m			標準的使用	戸建住宅地						
	標準的画地の形状等		間口 約 12.5 m、奥行 約 16 m、規模 200 ㎡程度、形状 長方形									
	地域的特性	特記事項	特記すべき事項はない		街路	基準方位北 6 m 市道	交通施設	淵野辺駅 北東方 3 km	法令規制	1 低専 (40,80) 高度(1種)		
	地域要因の将来予測	バス利用の戸建住宅地であり、格別な変動要因はなく、今後も概ね現状を維持して推移するものと予測する。										
(3) 最有効使用の判定	戸建住宅地					(4) 対象基準地の個別的要因	方位 +4.0					
(5) 鑑定評価の手法の適用	取引事例比較法	比準価格 95,400 円 / ㎡										
	収益還元法	収益価格 36,500 円 / ㎡										
	原価法	積算価格 / 円 / ㎡										
	開発法	開発法による価格 / 円 / ㎡										
(6) 市場の特性	同一需給圏は町田市内の駅からバス便区域となる住宅地域が存する圏域である。主な需要者は町田市及び隣接市に居住する給与と所得者の個人で居住の快適性を特に重視する傾向にある。駅徒歩圏内の住宅地域と比べると利便性が劣ることから需要は相対的に弱い。需要の中心となる価格帯は、土地については1 5 0 ~ 2 0 0 ㎡程度で1 , 5 0 0 ~ 2 , 0 0 0 万円前後、新築戸建住宅について3 , 0 0 0 ~ 3 , 5 0 0 万円程度である。											
(7) 試算価格の調整・検証及び鑑定評価額の決定の理由	近隣地域及びその周辺地域は、アパート等の収益物件は少なく、中規模程度の一般住宅を中心とした住宅地域である。主な市場参加者は住宅地の取得を目的とする個人で、賃貸需要は希薄であることから、類似不動産の取引価格等の市場性を重視して購入の意思決定を行う傾向が強い。以上より、対象不動産に係る市場の実態を考慮のうえ、比準価格を重視し、収益価格は参考に留め、指定基準地との検討を踏まえ、鑑定評価額を上記のとおり決定した。											
(8) 公規価示価格と格しをた	□代表標準地 ■標準地		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の規準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標準化補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 0.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因	街路 -2.0 交通 0.0 環境 +8.0 行政 0.0 その他 0.0
	標準地番号 町田 - 30		[100.0] 100	100 [100.0]	100 [105.8]	[104.0] 100	95,600					
(9) 指か定ら基の準検地討	指定基準地番号		時点修正	標準化補正	地域要因の比較	個別的要因の比較	対象基準地の比準価格 (円 / ㎡)	内 訳	標準化補正	街路 0.0 交通 0.0 環境 0.0 画地 +4.0 行政 0.0 その他 0.0	地域要因	街路 +2.0 交通 +6.0 環境 +52.0 行政 0.0 その他 0.0
	町田(都) - 21		[101.3] 100	100 [104.0]	100 [164.3]	[104.0] 100	95,600					
(10) 対年象標の基準検準価討地格の等前か	- 1 対象基準地の検討			価格変動要因の	(一般的要因) 景気は緩やかに回復しているが、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。							
	■継続 □新規 前年標準価格 95,500 円 / ㎡				(地域要因) 駅から距離がある住宅地域であり、特段の変動要因はみられず、地価は弱含みで推移している。							
	- 2 基準地が共通地点(代表標準地等と同一地点)である場合の検討				(個別的要因) 個別的要因に変動はない。							
	□代表標準地 □標準地 標準地番号 - 公示価格 円 / ㎡											
変動率		年間 -0.1 %	半年間 %									